

派遣先所属 宮城県土木部河川課
氏 名 横山 裕一 (よこやま ゆういち)
派遣期間 平成28年4月2日～平成30年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の河川課では、主に新規発注工事の総合評価事務及び沿岸仙台土木事務所で管轄している地震災関連の復旧・復興に関する業務を行っています。

宮城県では、地震災関連工事について5億円を超える工事を本課発注としており、請負業者選定に当たって河川課で総合評価を行っています。入札金額が低額な業者が落札業者になるとは限らず、価格以外の評価項目が重要な要素を占めているので、評価に当たっては気を遣うところですが、新工法や情報機械化施工での提案も多くされるため、日々資料を集めるなどして勉強になるところです。

震災から6年以上経過し、大分竣工工事が増えて、新規発注工事は減ってきたところですが、1件当たりの発注金額が大きいこともあり、全体の完成にはまだまだの感があります。

下記に私が担当している仙台土木事務所管内の五間堀川の災害前と完成後の写真を添付しました。



被災時の写真



竣工写真

●堤防はコンクリートで被覆し粘り強い構造とした上で、環境に配慮し被災前からあった松並木の河川法線をずらして保存している。また、表法・裏法とも覆土し、植物の生育を促し自然環境に配慮している。堤防高さはTP+3.70m (L1堤防) とし、数十年～百数十年に1回程度発生する頻度の高い津波 (レベル1津波) に対して守れる構造としている。ただし、最大クラスの津波 (レベル2津波) に対しては「粘り強い構造」とし、津波の越流の際に堤防全壊の危険性を低減することで、避難時間を稼ぎ、住民の生命を守っている。

2 被災地の復旧・復興の状況

画像は東北宮城復興マラソン2017開催パンフレットで、沿岸部で海岸及び河川堤防が未完成な地区ですが、今年このような催しがありました。阿武隈川と名取川に挟まれ、海岸に沿って位置する五間堀川と南貞山運河沿いをコースとしたマラソン大会でした。河川工事はまだ2~3年ほどかかる見通しですが、宮城県民の力を感じた大会でした。



3 被災地へ派遣となって感じたこと

宮城県庁勤務のため、被災地を実感することは余りなく、大都市仙台にいと、どこが被災しているのかわからなくなることがありますが、現場を見に行った時などは、復興はまだまだ時間がかかると感じます。

宮城県は埼玉県と違って、冬は雪が降ってかなり寒くなります。一方、少し足を延ばせば、観光地も良い温泉もたくさんあります。これからは紅葉の季節であり、美しい景色に癒され、冬にはスキー場もすぐ近くですし、ゴルフ場もたくさんありますので、週末には楽しんでいます。

さらに、宮城県は「食材王国」と自負しており、たくさんの美味しいものやお酒がありますので、東北宮城を楽しんでいます。

たくさんの方が宮城県を訪れ、東北を元気にしてくれることを望みます。